



虹ヶ丘

<https://kawasaki-edu.jp/2/511/nizigaoka/>

虹ヶ丘小学校

ホームページ ⇨



新たな学びがスタート

校長 井上 恵子

たけのこの生えるころに降り続く長雨を「筍梅雨」というようです。ちょうど朝会の日に雨が降っていたので「筍梅雨」の話をしました。私は、「雨のことば辞典」を持っているのですが、こんなに雨のつく言葉があるのかと驚きます。おそらく、昔の人は雨の災害と恵みと付き合いながら暮らしていたのでしょう。他には「菜種梅雨」や「山茶花梅雨」などがあり、自然の豊かさと日本語の美しさを感じます。

先日、6年生は早野にたけのこ掘りに行きました。東柿生小学校の子どもたちの活動に参加させていただいたのです。今年はあまり育っていないとの予想でしたが、「10個も取れた。」と話していました。ご指導いただいた大学の先生から「いただく」という言葉や里山を守るために竹を伐採していく必要があると聞いて、早野への興味関心が芽生えていました。学校にもどって詩画づくりです。机にたけのこを置いてにらめっこ。素敵な作品が出来上がりました。詩のみですが紹介します。

また君の仲間をほって
作るからね
美味しくいただくね。
君はどんな味なのかい？
おうい、たけのこさん。
君はどれだけうまっていたの？
君をほるのは、大変だったよ。

たけのこゲット
やった！
ザクッザクッ ポキッ
あたまでてきた
ザクッ ザクッ
まだぬけない
ザクッ ザクッ

ここにちも
ここにちも
ここにちも

「こんにちは」と呼びかける作者の温かい心を感じます。次の作品は、たけのこが掘れた喜びを素直に表現しています。たけのこ掘り初体験なのでしょうか。次の作品は、「大変だったよ」に実感がこもっています。「いただく」を学び、自然の恵みへの感謝の気持ちが「絶品料理」に表れています。子どもは大人が失ってしまった能力や感覚を心と体にもっています。だから心に届くのですね。この学習は、総合の学習と図工と国語の連動です。体験から追究する課題が生まれてくると、子どもたちの学びは主体的になっていきます。東柿生小学校との学習交流は新たな取り組みでした。今後も様々な方々とのコラボを考えていきたいと思えます。

子どもたちに朝会で話したことでの感想をもらいました。10年前は「世界一幸せな国」と言われていたブータンの幸せ度が下がったということから、人と比べるのではなく、昨日の自分と比べて「できるようになった」「わかった」をめざしましょう。人と同じことをやると比べられるから、そこから抜け出すには「違う」ことが大事です。そうすると、「自分を幸せにする」ことができるのではないかと私は思うという話です。感想には、

- ・幸せは一人一人にあるから比べない方がよいと思った。
- ・人と比べることは大切だけど、人と比べすぎると、逆に自分を傷つけてしまう。
- ・スポーツは常に人と比べながらやらなければいけない。もちろん勝ったらうれしいし、負けたら悔しい。それは当たり前なんじゃないかと思う。

一生懸命聴いて、考えて、表現をした子どもたちの文章を読んで、また私も考えました。幸せな学校を自分たちでつくっていく気持ちをもって過ごしてくれることを期待しています。